



昭和30年(1955年)代前半の水ノ浦湾と水ノ浦地区
中央左に太地湯の煙突がかすかに見え、右隣直近の二層の屋根が堀端
たばこ店。黒く大きな建物は、映画館「平和劇場」。干潟ではアサリが
採れた。

堀端勝之さんに子供のころ生活していた水ノ浦の自然や地
区の様子などについての思い出を綴って頂きました。

一つ一つの岩が、かくれんぼを
する絶好の場所である。「モ
ーチの木」と呼ばれた木もあ
り、この木の皮をはがし、石
で叩きつぶし、出てくる汁が
糊状になり、よく引つ付いた。
セミをとるために長い竹竿の
先につけ、高い木にすがって
いるセミにびたつとひつつけ、
よく獲ろうとしたものである。
引つつく前に、
セミにしっこ
を発射され、
獲れる確率は
低かった。こ
この小さな広
場で、地面に
小さな穴を掘
り、飛ばす木
の枝と打つ木
の枝でゲーム
をする「棒野
球」も楽しん
だ。また、近
所に住む四・
五歳年上のと
っちゃんやう
ちやんに杉

昭和の水ノ浦あれこれ

堀端勝之



第324号
発行日 令和5年7月1日
●発行●
太地町公民館



の実鉄砲のつくり方を教えて
もらい、この人たちのものは、
「パチッ」といい音が鳴るの
だが、自分のは鳴らず、何で
だろうと悩んだ。鳴らなかつ
た理由は、竹の筒部分の前、
後ろを工夫して作るだけのこ
とだった。杉の実が飛び出し
ていく方を竹の細い部分に位
置づけ、実を詰める方を太い
方にするだけのことであつた
が、初めは、全く気が付かな
かつた。小さな杉の実が、顔
にあたってもけがすることは
なく、打ち合いをして、遊ん
だことが懐かしい。

ナイフ(当時は肥後守とい
う折りたたみできるナイフが
子どもの間で人気があつた)
を使い、竹を削るのであるが、
刃先で手をよく切つた。その
ときは、ヨモギの葉っぱをこ
すり、汁を出し、傷口につけ
ると血が止まると年上の子に
教えてもらった。年上の子は、
迫力があり、恐ろしくも思え

堀端勝之プロフィール

1954(昭和29)年太地町生
まれ
新宮高校、同志社大学卒業。
郡内の小学校で勤務、201
5年太地小学校長を最後に定
年退職、太地町公民館長、教
育委員を歴任。平見地区在住。

たが、いろいろと教えてくれ
る優しい面もあり、小さな先
生でもあつた。

当時は、アメリカの映画『タ
ーザン』も流行り、木の上に
小屋をつくって、基地にして
遊んだ。基地にのぼるのに縄
梯子も作つたが、これは不安
定で、地面に近い部分は持つ
てもらうか、固定しないとブ
ランブランして、上ることが
できなかった。これも作り方
を教えてくれるのは、年上の
人たちである。シダがやばつ
た(茂つた)ところをトンネル



忠魂碑と広場、町が管理している

のようにして、穴倉をつくり、
「隠れ家や」と言い合いなが
ら、遊んだのも楽しかつた。

当時の親は、生活をするこ
とに追われていて、子どもた
ちは放任されている傾向が強
く、年上の子から年下まで、
群れをつくって遊んでいた。
私は、おとなしいタイプで、
グループの後ろにいつもくつ
ついて遊んでいた。

「釣り」

釣りは、大好きだった。小
学校へ入る前から、竹の竿に



庄司家によく遊んだ石堀

浮きと釣り針をつけてもらい、
母親に魚の切り身を小切りし
て餌を作ってもらい、エサ入
れの小さな籠に入れ、水ノ浦
湾の海沿いを釣り糸を垂らし
て、移動していた。釣れるの
は、クサフグ、こつぱグレ(グ
レの子ども)、ワサナベ(縦じ
まの入った小さな石鯛の子ど
も)、ベラ等で、小さすぎて食
べられる魚などなく、小さな
バケツに入れておいた魚が死
んでぶかぶか浮かんでいるの
を海にほりこんでいた。魚た
ちも、哀れだった。浮きが、
ツンツンと浮き沈みし、グダ
ツと海の中へ引き込まれて
いく時に、合わせて魚を釣り
針にかけるが、逃げられたと
きはがつくり、引つかかつた
ときは、竿の先がぐんと曲が
り、喜んで引き揚げたもので
ある。入り江の波の静かなと
ころで、大きくなって、外海
に出られるまで生活していた
幼魚たちにとっては、この釣
り小僧は、とんでもない外敵
である。

クサフグは、釣り上げて、
地面に落とすと、怒ったよう
に腹を風船のようにふくらま

生涯学習講座 ご案内

歴史・自然講座

No.2 飼育員と見る、くじ
らの博物館のくじらたち

講師 おさほら なるみ
萩原 成美氏

日時 令和5年7月18日(火)
13時30分

定員 20名

集合 くじらの博物館

参加申込
7月13日(木)までお申し込
み下さい。

内容 博物館で飼育してい
る鯨類を飼育員と一緒に
間近で観察し、解説を聞
きなから理解を深める。
具体的には、イルカショ
ープール、自然プール、
マリナリウムの3か所を
飼育員が解説しながら歩
き、ここで暮らす9種類
の鯨類について学ぶ。

参加申込は太地町公民館
電話(59・2335)
まで、ご連絡お願いします。

せる。これの思いつきり踏ん
づけると、「パンッ」と大
きな気持ちのよい音がして割
れる。いたずら好きな子ども
は、よくそんなことをしてい
た。腹を割られたクサフグは、
海に蹴落とすと妙な泳ぎ方を
して、海中で動き回るが、あ
とは、「ポカアン」と腹を上
向けて、浮かび上がり死んで
しまう。かわいそうなことを
たくさんしたものである。

(続く)